

風にのって、羽ばたく。

〔2021年・新春〕



医療法人 仁木会
広報誌 Vol.32

Take Free.

ご自由にお持ちください

そよ風のてがみ

〔特集〕

新型コロナ感染症対策

～意識を高めて冬季を乗り越える～

2021年巻頭言

医師紹介

新入職員紹介

部署紹介

かんたんレシピ

〔サバのスンドゥブチゲ〕



● 外来診療のご案内

・受付時間／8:30～11:30、13:00～16:30

※初めての方は待ち時間解消のため、お電話でご予約ください。

・診療時間／9:00～12:00、13:00～17:00

※ストレスケア外来・ストレスカウンセリングは、ご予約の上ご来院ください。

・休 診 日／土・日・祝日

※再来急患の場合は、その限りではありません。

● 診療費のお取扱いについて

〔窓口でのお取扱い時間〕

・平 日／ 9:00～17:00

※土・日・祝日のお取扱いはありません。

〔口座振替〕

ご指定の口座より自動振替による、入院費・日用品代のお支払いができるサービスを行っております。定期的に来院するのが大変な方、遠方からお越しの方等、大変便利なサービスとなっておりますので、ぜひご利用ください。

〔クレジット・クイックペイ〕

入院費・外来診察料・カウンセリング料のお支払いが可能です。
一括払いのみとなります。分割払い・リボ払いはお取扱いしておりません。



再来予約専用

TEL.090-1779-5326

TEL.096-383-7810

電話予約受付時間
(平日のみ)

8:30～12:00

13:00～17:00

● 保険証の確認について

・外来／診察毎時 ・入院／月1回

※窓口での提示をお願いします。

● お問い合わせについて

初めての方…………… TEL.096-384-3111

一般外来…………… TEL.096-383-7810

(診察予約・変更・キャンセル) TEL.090-1779-5326

ストレスケア外来・カウンセリング…… TEL.096-383-4679

(診察予約・変更・キャンセル)

デイケアに関すること…………… TEL.096-384-3151

＜医療機関・地域包括支援センター・介護施設のご担当者様へ＞
各種お問合せは地域連携室で対応させていただきます。

基本理念

医療法人仁木会は、
患者様の心を癒し、社会で安心して生活が出来るように手助けをします。
患者様、ご家族、地域の方々に寄り添った、
家庭的で心の通った医療とサービスを提供します。



医療法人 仁木会は
ロアッソ熊本を
応援しています。



医療法人 仁木会
ニキ ハーディーホスピタル
〔精神科・神経科・神経内科〕
〒862-0920
熊本市東区月出4丁目6-100
TEL.096-384-3111



医療法人 仁木会
訪問看護ステーション クレイン
〒862-0920
熊本市東区月出4丁目4番74号
TEL.096-234-7738
FAX.096-234-7746



医療法人 仁木会
相談支援事業所 アウル
〒862-0920
熊本市東区月出4丁目4番74号
TEL.096-234-7756
FAX.096-234-7746



Doctors

introduction

医師紹介

精神保健指定医 | 和田 冬樹

3年程前から非常勤で勤務されてもらっております。精神科救急が活発な病院で長年勤務しておりましたので、メンタルヘルス、心的外傷後ストレス障害や解離性障害など患者さんがたくさん居られ新鮮な感じで仕事させてもらっています。トラウマに関する様々な治療技法も少しずつ勉強させてもらいたいと思っています。趣味は読書と映画鑑賞です。MOMACEやチーム医療にも概ね慣れてきたように思っています。今後ともよろしくお願いいたします。



精神保健指定医 | 吉留 かおり

この4月より入職いたしました吉留かおりです。熊本は初めての場所で、あちこち行ってみたい所はあるのですが、あいにくのコロナ渦でそういうわけにもいかず、最近、もっぱら万歩計を片手に、美味しい物を探して近所を散歩するのが楽しみになっています。患者様のお役に立てるよう、皆様と一緒に頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



精神科医 | 仁木 啓斗

理事長の次男になります。小さい頃から父の働く姿を見ていたニキハーティーホスピタルで働けることに、とても感慨深さを感じています。まだまだ未熟なため色々ご迷惑をおかけすると思いますが、誠心誠意働かせてもらおうのでよろしくお願いいたします！



THE YEAR 2021

preface

巻頭言

...

理事長 仁木啓介

二〇二〇年は、熊本地震の復興が少しずつ進み、災害公営住宅の完成や、阿蘇に通じる新たなトンネルが開通し、未来に向けてやっと動き出そうとしている中、人吉球磨豪雨災害を受け、熊本はまた大きな試練を背負った。加えて新型コロナウイルス問題は、復興を支援する人達にとって大きな壁になっている。新型コロナウイルス感染拡大は、C B R N E 災害並みに世界を襲い、人の自由は奪われ、絆は分断され、我々の生活様式の変化は、人の孤立化を深め、経済にも大きな打撃を与えている。世界中の人々に勇気や元気をもたらす、平和の祭典であるオリンピックも吹き飛んでしまった。

マザー・テレサは、「人間のほほえみ、人間のふれあいを忘れた人がいます。これはとても大きな貧困です」と述べている。新型コロナウイルスにより、マスクは必須のアイテムになり、ソーシャルディスタンスを保ち、物理的な接触もままならなくなった。子どもの愛着欲求を満たす機会も減っただろう。心の貧困の影響は、タイムラグを持って表面化してくる。意欲を失ったり、うつのような状態を示す人。交感神経が活性化しやすい人は、怒り、イライラ、多動気味になり、相手を責めたり、時には何かに没頭して、疲弊する人もいる。また、背側迷走神経が優位になってしまった人は、考えられなくなったり、記憶が飛んだり、身体が思うように動かない、しまいにはシャットダウンまで起こしてしまう。

更に、マザー・テレサは、「誰かに微笑みかけること、それは愛の表現であり、その人へのすばらしい贈り物となるのです」と述べる。周りの人に、マスクの中から、微笑みかけましょう。そうしてアイコンタクトでお互いを感じ、心の繋がりを意識しましょう。

コロナの中、一人暮らしのお年寄りの受診があった。コロナで家族に会う機会が減り、寂しさが更に大きくなったと苦悩を述べられ、私の目を見つめ涙ぐみながら、私に会えて心が落ち着いたと感謝をされた。「世界中の人が、コロナで我慢しているから、私の苦しさなんて、小さな問題ですね。」と笑顔で診察室を後にされた。

優しい言葉は、相手の心を労り、それは自分を大切にするのに繋がる。人は一人では生きてはいけない、知らないところで、多くの人の関わりがある。それらの絆を意識しよう。頭の上に広がる青い空は、逢えない誰かも同じ空を見て、同じ空気を吸っていますよ。

二〇二一年は、すべての人に、より良い年でありそうですように。



世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルス院内でも対策を徹底しています

当院の新型コロナウイルス感染症対策は、定期の感染防止対策委員会に加え、県の感染発生状況等に応じ、臨時の委員会を開催し、感染防止に取り組んでいます。「院内イベントの中止」「個人防護具の在庫補充」「ハードウェアの検討」「疑い患者来院時の外来・入院時の動線確保」等について準備を進めてきました。新型コロナウイルスは、「密接・密閉・密集」の三密が、感染リスクの高い場所とされています。標準予防策に加え、感染経路別の「接触・飛沫感染対策」を含めた対応の強化に努めます。

安心してご来院・ご入院いただくために

来院されるかたには、マスク着用、手指消毒、非接触測定器での体温測定、ヒアリングシートを用いての健康状態把握、酸素飽和度測定を行っております。動線を考慮し、玄関の入口と

出口も別方向でご案内しています。

入院患者様には、安心して治療に専念できる環境維持のため、マスク着用、原則面会禁止、不要不急以外の外出・外泊制限をお願いしています。

食事は、自室以外で摂取されるかたには、正面で向き合わないよう交互に席の配置をしています。他病棟との接触を避けるため、院内買い物は曜日・時間を割り振り、OT活動も病棟単位の活動とし、プログラムの見直しをしています。外泊される場合は、ご本人はもとよりご家族の健康状態も確認させていただきます。帰院後は1週間のコホーティングをし、検温・症状の観察をしています。



特集

当院における

新型コロナウイルス感染症対策

— 看護部長：後藤 郁美 —

職員の間でも対策を継続

職員には、体温・体調異変時は速やかに報告後、自宅療養および内科受診としています。こまめな手洗い・手指消毒、換気、正確なマスクの装着、ソーシャルディスタンス、共用部分の複数回の消毒の徹底等取り組んでいます。集合研修は中止し、少人数での開催および各部署でのDVD視聴への切り替え、休憩場所・更衣室は部署ごとに分散しています。委員会開催も、必要最低限としています。

看護部では、勤務前・勤務中の検温、個人防護具の着脱法閲覧後の着脱訓練、病室・保護室エリア使用時のゾーニング確認・訓練、シフト変更のシミュレーション、患者様へのマスク



今後も一人一人が自覚を

着用・手洗い・手指消毒励行等の教育も継続しています。ハード面の準備も進め、不安を増強しないよう、確実な情報を提供できるよう心掛けていきます。

今後も新型コロナウイルス感染症の長期化が予想され、冬季はインフルエンザ流行も危惧されます。誰がいつ罹患してもおかしくない現状ですが、各自が医療者としての自覚をもち、感染しない・持ち込まない等家族も含めた感染対策への意識を一層高めていく必要があります。標準予防策の遵守を、職員一丸となって実施できるよう取り組んでいきたいと考えています。



かんたんレシピ



サバのスンドゥブチゲ

材料 (4人分)	鯖缶(水煮) …… 1缶	白ごま …… 適量
	キムチ …… 150g	味噌 …… 大さじ1.5
	豆腐 …… 1丁	水 …… 4カップ
	キャベツ …… 4～5枚	A 鶏ガラスープ顆粒…大さじ1
	もやし …… 1P	酒 …… 大さじ1
	小ねぎ …… 2本	

- 作り方**
- ①キャベツはざく切り、小ねぎは小口切りにする。
 - ②鍋にAを入れ、煮立たせ、キャベツ、もやし、キムチを入れて煮る。
 - ③味噌を溶かし入れ、味を調整する。
 - ④サバを適当な大きさに割り入れる。
 - ⑤豆腐を食べやすい大きさに切りながら入れる。
 - ⑥数分煮込んだら、卵を割り入れ、白ごま、小ねぎを散らす。

POINT

キムチには乳酸菌が多く含まれ、これらの乳酸菌は胃酸に強く腸内まで届き、整腸作用や便秘改善の効果が期待できます。また、辛味成分のカプサイチンはアドレナリンの分泌を促進するため、基礎代謝が活性化し、エネルギー代謝を促進させる効果があります。鯖に含まれる良質な脂であるDHAやEPAは総コレステロールを抑え、善玉コレステロールを増加させたり、中性脂肪を減らす効果があります。

鯖缶は骨ごと食べる事が出来るため、カルシウムやマグネシウムなどの栄養素が摂取でき、骨粗鬆症予防に効果的です。寒くなるこの時期に温まる鍋を試してみたいいかがですか？

編集後記

広報委員会もコロナ禍の影響を受けてしまい、一時期委員会活動を中止せざるをえず、1年ぶりの広報誌発行となりました。すこしずつ新型コロナに関連する不調で受診される方が増えつつあり、ウィズコロナ・アフターコロナに即した精神科医療の提供が必要と考えます。安心・信頼いただけるよう今後も情報発信してまいりたいと思います。



令和2年7月13日～7月24日の期間、芦北・水俣地域のDPATとして活動に参加いたしました。活動中盤から保健師の方々とDMATとの連携が活発化し、DPAT調整本部との連携や指示の下で精神科医療ニーズに対応いたしました。芦北町役場との平時からの関わりがあったことや、熊本赤十字病院での災害医療訓練に

災害支援活動について
令和2年7月豪雨

こんなことがありました
できごと

参加させていただいた経験が十分活かせたと思います。令和2年9月には、芦北町役場からの要請によって職員様へメンタルヘルス支援を行わせていただきました。

いずれにおいてもコロナ禍の状況下での活動であり、感染対策を徹底する必要がありました。感染対策用の備品を揃えていたことに加えて、オンライン会議やリモート対応用の機材を準備していたため、有効に活用することができました。今後も支援を継続していきたいと考えています。

一日も早い復興を心より祈念申し上げます。



新型コロナ感染の影響

利用者は想定していたよりもやや下回りました。緊急事態宣言発出から解除までの間とそれ以外の期間での受理件数に優位に開きがあり、コロナ禍の影響が大きいと分析しています。

感染防止のためご挨拶回りを控えたこと、大変恐縮ながら事業所様のご来訪をお断りしていたことが影響し、サービス事業所と所謂“顔を合わせて”の関係構築の不足が否めません。

一方で、法人内での効率性向上のためのデータベース開発・VPN等システム運用が、結果として感染対策と業務継続の両立に寄与しました。

今後の展望

地域移行・地域定着支援

1年間で2件の実績を作ることができました。今後も医師・看護師・他スタッフと連携して進捗していきたいと思っています。

一般・特定相談(計画相談)

地域包括ケアシステムの一端を担い、地域の関係機関との緊密な連携、自立のための適正な支援・サービス活用を基本原則として運営したいと考えています。特に居宅介護(ホームヘルプサービス)利用を希望される方には、主治医への相談と精神科訪問看護の利用をお願いしており、今後多くのステーションと緊密に連携していく必要があります。

『自立支援』、『ニーズと特性、生活様態にあわせた適正なサービス利用支援』を基本方針に相談支援を行ってまいります。

障害児相談

サービス利用の一プロセスに埋没してしまっているケースが少なくありません。特にニーズが増加している「医療的ケア児」「重症児」については、より手厚い支援や配慮が必要ですが、児童への支援の経験の浅さ、ネットワーク構築・参加が不十分と猛省しています。

相談支援専門員の研鑽と体制強化にあわせて、保健師、サービス提供事業所、医療機関、小児訪問看護を行う訪問看護ステーション等と積極的に連携し、お役に立てよう微力を尽くしたいと思います。

目下、「早期支援」・「就園・就学支援」がテーマです。多くの方と関わり、ご指導を仰ぎたいと考えています。

まとめ

1年を経て、多くの相談をいただくようになりましたが、障害者総合支援法のサービス利用では課題解決に至らないケース・必要なケースが徐々に増えています。法人全体を資源として活用し、手厚い支援と効率性の運営の両立を図ります。

ニューノーマルに即した相談支援・サービス利用支援を模索しています。オンライン会議システムをフルに活用し、SNS等通じて支援を必要とする方へ直接的な情報発信を行うなど、安全安心な相談支援体制を作り上げたいと思います。より多くのニーズに効率的に、しっかりと対応できるよう、新たな事業展開を模索しています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

相談支援事業所 アウル



実績と今後の展望

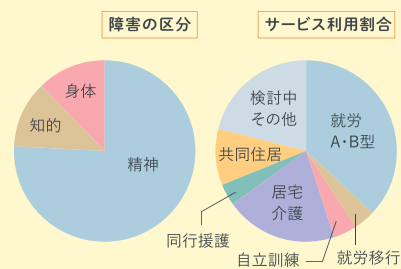
相談支援事業所アウルを開設して1年が過ぎました。本誌をもって情報公開し、これまでの経験からみえた課題、今後の方針や展望についてふれます。

関係される方々にご理解いただき、連携強化の一助となれば幸いです。

地域連携部長／管理者
片山 淳一

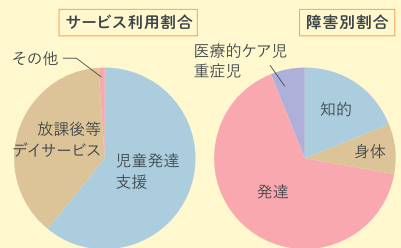


特定相談(計画相談)



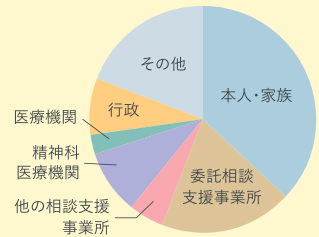
「精神障害」の方々の利用相談が最多でした。「知的障害」については支援学校からのご相談が多く、「身体障害」については医療機関からの問い合わせが多い状況でした。

障害児相談



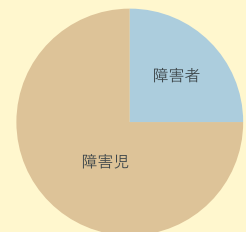
「発達の遅れ・発達障害」の方の相談が最多で、9割以上がお母様からの相談でした。6割の方が「児童発達支援」利用希望です。利用開始の年齢は3歳が最も多く、3歳児健診で発達検査や療育を受けるよう勧められるケースが多い状況です。

相談の受付状況



当事業所への相談は、「本人・家族」からが最も多く、熊本市のホームページや各区役所から提示された一覧表をみて連絡した方がほとんどでした。一方で7割近くは「他機関からの紹介」です。「障害児相談」のニーズが多く、支援開始から早期に保健師の方々との連携体制を構築したいと考えています。

障害者・障害児の割合



「障害児相談」が4分の3を占めます。ほとんどが「発達の遅れ」による児童発達支援の利用希望者であり、約7割が3歳児です。

11月以降、「医療的ケア児」「重症児」の相談支援が増えていきます。